

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 観光客数の概況

#### (1) 総観光客数

##### ① 平成29年の総観光客数

(単位：万人)

区分	平成29年	平成28年	対前年増減	対前年増減率
総観光客数	6,989	6,777	212	3.1%

平成29年の総観光客数は6,989万人で、平成28年と比べて212万人(3.1%)増加し、6年連続で過去最高を更新した。

主な要因として、宮島の来島者数が過去最多を更新するなど、主要観光地が堅調に観光客数を伸ばしたことに加え、広島空港のシンガポール線の就航などにより外国人観光客が増加したことなどが挙げられる。

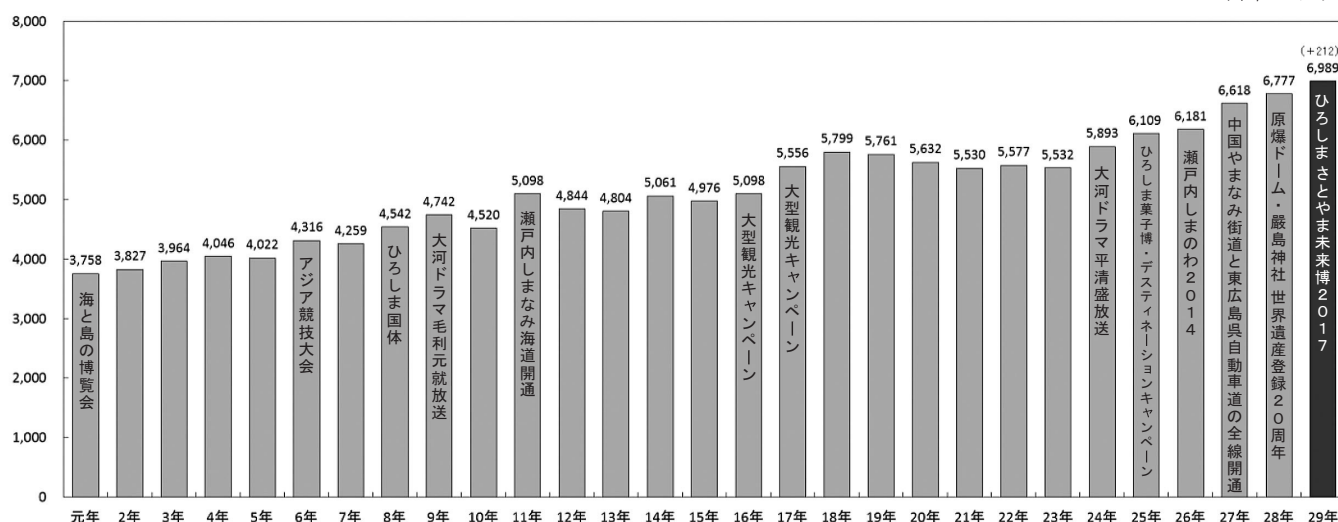
##### ② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成21年以降5,500万人台で推移していたが、平成24年は、大河ドラマ「平清盛」放送の効果もあり過去最高を更新し、平成25年は、広島県 destination キャンペーンの実施などにより、初めて6,000万人を突破した。

平成28年は、オバマ元米国大統領の来訪や原爆ドーム及び厳島神社の世界遺産登録20周年キャンペーンの効果などもあり好調に推移し、平成29年は、平成24年以降6年連続して過去最高を更新した。

図1 総観光客数の推移

(単位：万人)



(単位：万人)

区分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
総観光客数	3,758	3,827	3,964	4,046	4,022	4,316	4,259	4,542	4,742	4,520	5,098	4,844	4,804	5,061	4,976
対前年増減率	13.2%	1.8%	3.6%	2.1%	▲0.6%	7.3%	▲1.3%	6.7%	4.4%	▲4.7%	12.8%	▲5.0%	▲0.8%	5.4%	▲1.7%

区分	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
総観光客数	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632	5,530	5,577	5,532	5,893	6,109	6,181	6,618	6,777	6,989
対前年増減率	2.5%	9.0%	4.4%	▲0.7%	▲2.2%	▲1.8%	0.8%	▲0.8%	6.5%	3.7%	1.2%	7.1%	2.4%	3.1%

(2) 市町・地区別観光客数の状況

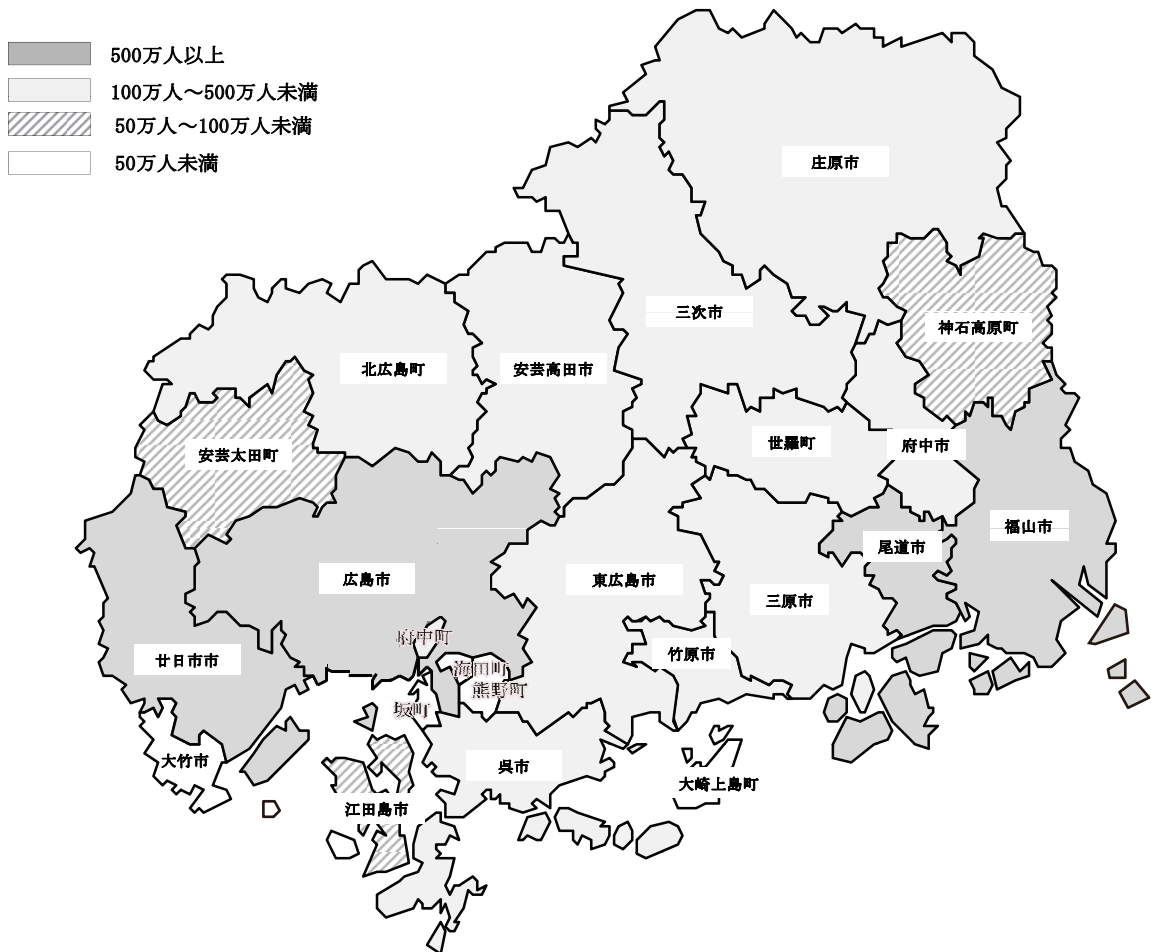
① 市町別観光客数の状況

観光客数	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	広島市, 尾道市	福山市, 廿日市市
100～500 万人未満	11 市町	三原市, 府中市, 三次市, 東広島市, 安芸高田市, 府中町	呉市, 竹原市, 庄原市, 北広島町, 世羅町
50～100 万人未満	3 市町	江田島市, 神石高原町	安芸太田町
50 万人未満	5 市町	海田町, 熊野町, 大崎上島町	大竹市, 坂町

市町別に見ると、広島市、廿日市市、福山市、尾道市などの瀬戸内海沿岸地域を中心に、観光客数が多いことがわかる。

なお、前年に比べて観光客数が増加した市町は 13、減少した市町は 10 である。

図 2 市町別観光客数の状況



② 市町別観光客数の順位（上位10位）

（単位：千人）

順位	市町名	平成29年	平成28年	対前年増減	対前年増減率	前年順位
1位	広島市	15,980	14,653	1,327	9.1%	1位
2位	廿日市市	8,099	8,212	▲113	▲1.4%	2位
3位	福山市	7,249	7,293	▲44	▲0.6%	3位
4位	尾道市	6,801	6,749	52	0.8%	4位
5位	呉市	4,580	4,597	▲17	▲0.4%	5位
6位	三原市	4,515	3,777	738	19.5%	6位
7位	三次市	3,410	3,394	16	0.5%	7位
8位	東広島市	2,846	2,840	6	0.2%	8位
9位	庄原市	2,633	2,757	▲124	▲4.5%	9位
10位	北広島町	2,514	2,595	▲81	▲3.1%	10位

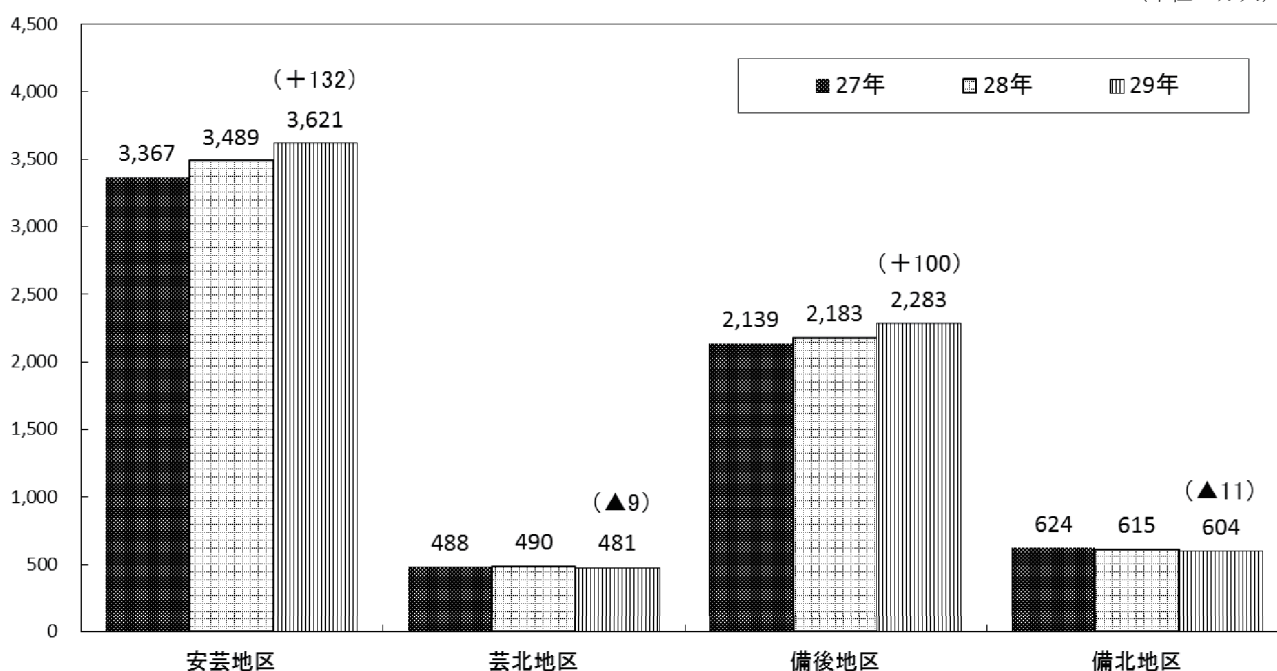
上位10市町のうち増加したのは5市で、広島市及び三原市は、平成28年と比べて5%を超えて増加した。

③ 地区別観光客数の状況

地区別では、前年と比べて、安芸地区が132万人（3.8%）、備後地区が100万人（4.6%）増加した。一方で、芸北地区が9万人（▲1.8%）、備北地区が11万人（▲1.8%）減少した。

図3 地区別観光客数の状況

（単位：万人）



### (3) 発地別観光客数の状況

#### ① 県内・県外別観光客数の状況

(単位：万人)

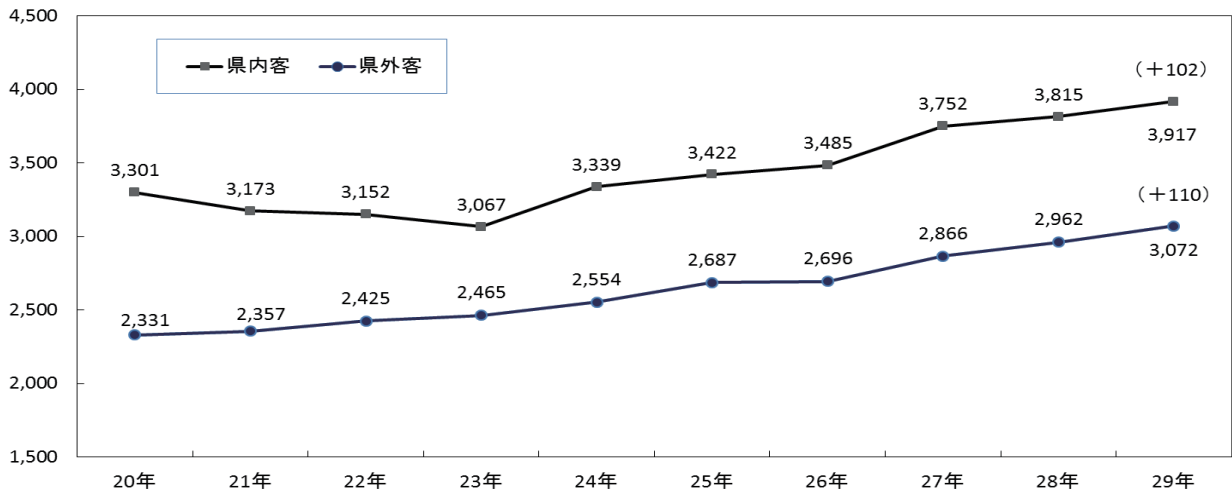
区分	平成29年	平成29年構成比	平成28年	対前年増減	対前年増減率
県内	3,917	56.0%	3,815	102	2.7%
県外	3,072	44.0%	2,962	110	3.7%

#### ② 県内・県外別観光客数の推移

県内観光客（地元観光客を含む）数は、前年比102万人増の3,917万人となり、6年連続で増加し、過去最高を更新した。また、県外観光客数も前年比110万人増の3,072万人となり、9年連続で増加し、過去最高を更新した。

図4 県内・県外別観光客数の推移

(単位：万人)

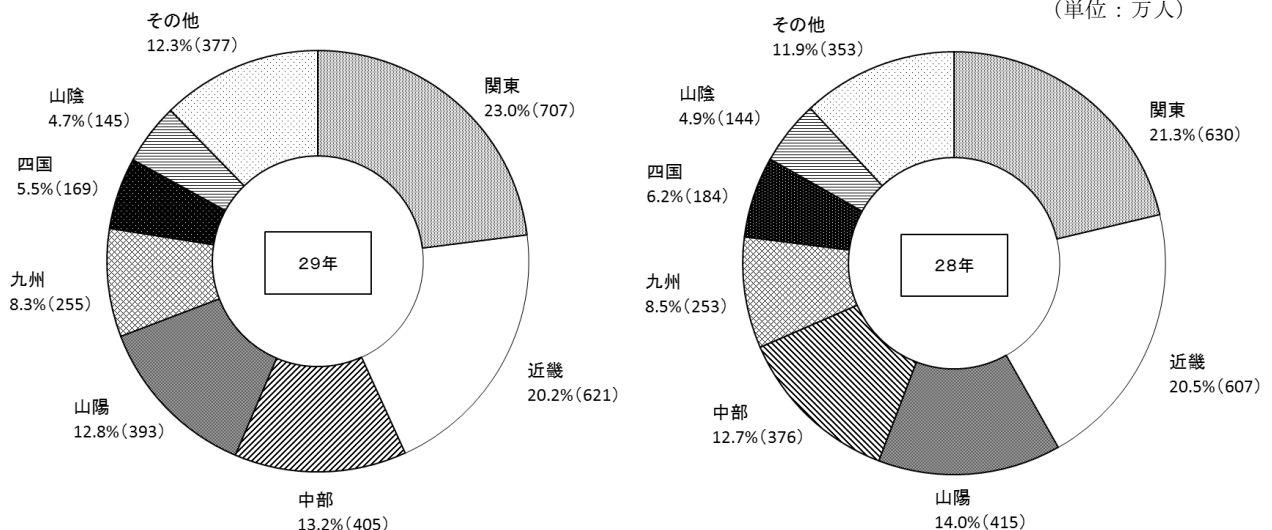


#### ③ 県外観光客数の発地別状況

発地別状況については、「関東地方」と「近畿地方」がそれぞれ600万人超で、この2地区の合計で県外観光客の半数近くを占めている。以下、「中部地方」、「山陽地方」、「九州地方」、「四国地方」、「山陰地方」の順となった。

図5 発地別県外観光客数の割合

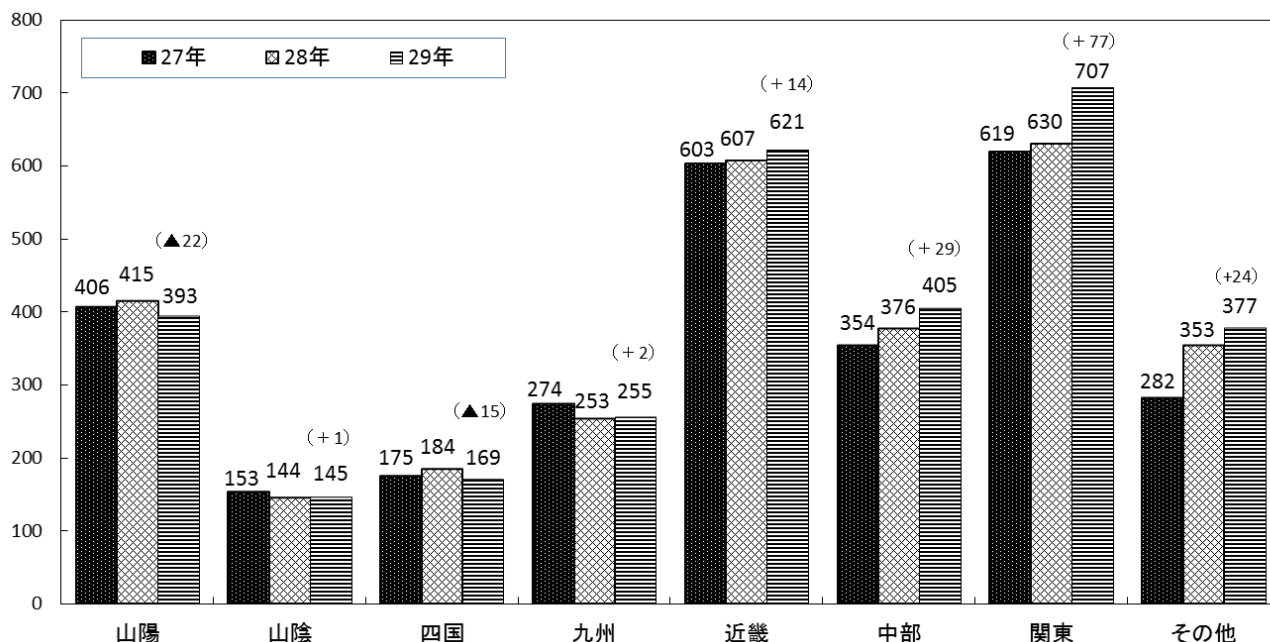
(単位：万人)



前年に比べ、「関東地方」は77万人、「中部地方」は29万人、「近畿地方」は14万人、「九州地方」は2万人、「山陰地方」は1万人増加した。一方で、「山陽地方」は22万人、「四国地方」は15万人減少した。

図6 発地別県外観光客数の状況

(単位：万人)

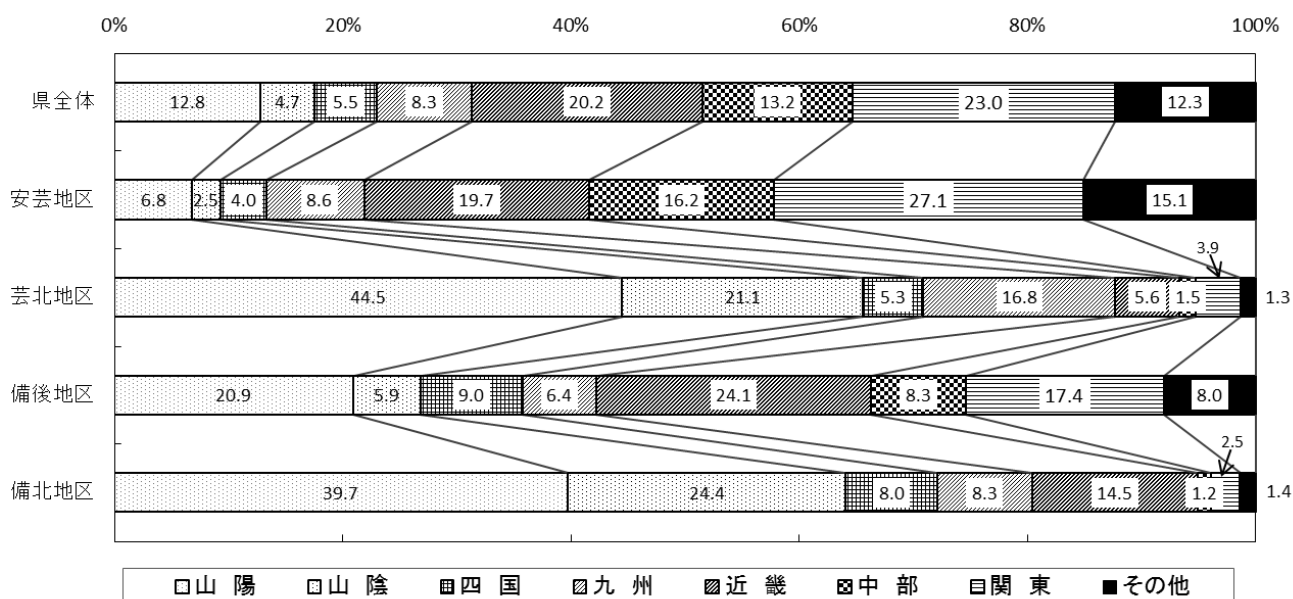


④ 地区別にみた発地別県外観光客数の状況

安芸地区は「関東、近畿、中部地方」など大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また、芸北地区は「山陽、山陰、九州地方」から、備後地区は「近畿、山陽、関東地方」から、備北地区は「山陽、山陰、近畿地方」からの観光客が高い割合を占めている。

図7 地区別県外観光客数の発地別割合

(単位：%)

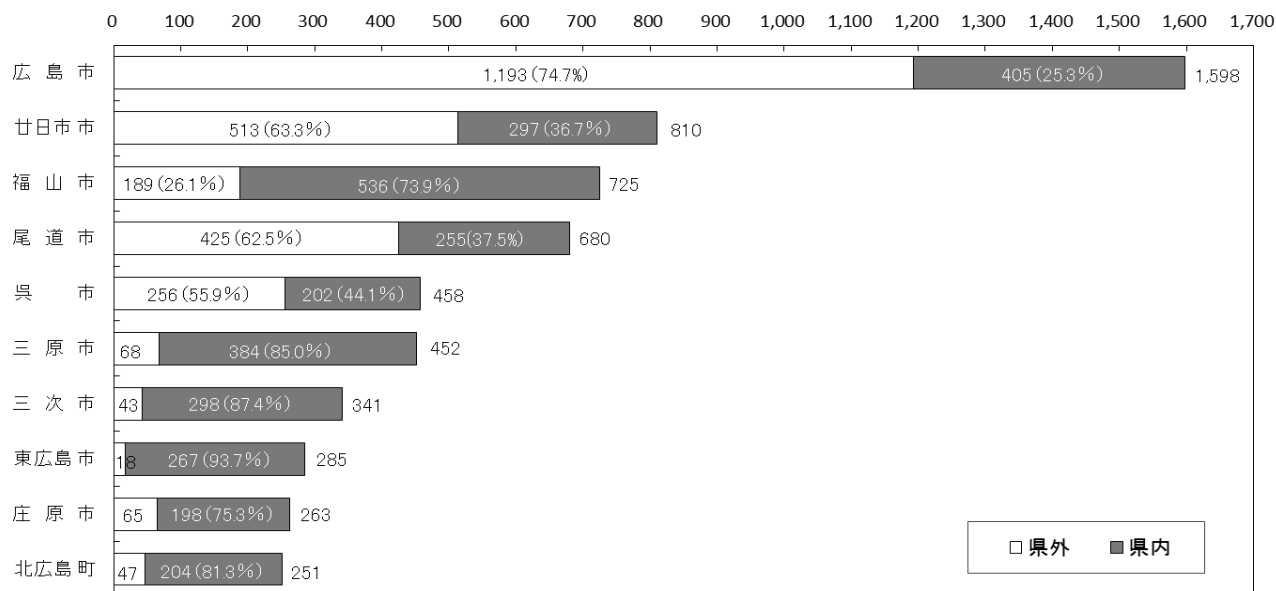


⑤ 市町別にみた県内・県外別観光客数の状況

観光客数の上位10市のうち、県外客の比率が県全体の平均44.0%を上回っているのは、広島市(74.7%)、廿日市市(63.3%)、尾道市(62.5%)、呉市(55.9%)の4市であった。

図8 市町別県内・県外別観光客数(上位10市町)の状況

(単位:万人)

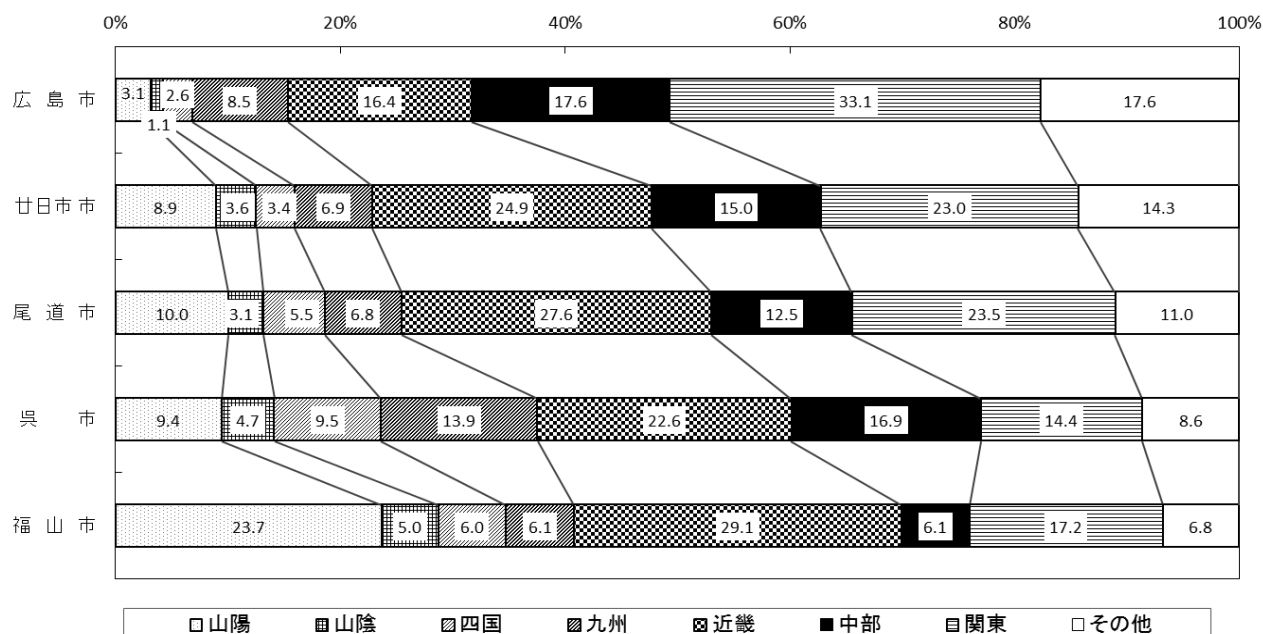


⑥ 市町別にみた県外観光客数の発地別状況

県外からの観光客数が多い上位5市を見ると、広島市は「関東、中部、近畿地方」から、廿日市市、尾道市は「近畿、関東地方」から、呉市は「近畿、中部地方」から、福山市は「近畿、山陽地方」からの観光客が高い割合を占めている。

図9 市町別県外観光客数の発地別割合(上位5市町)

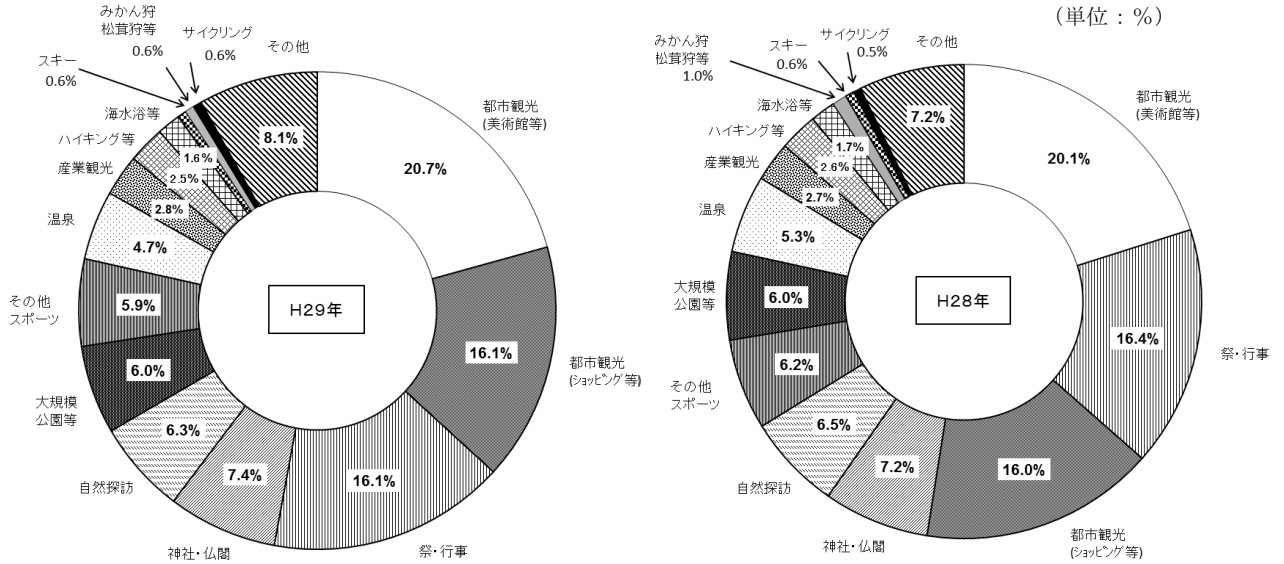
(単位:%)



#### (4) 目的別観光客数の状況

目的別では、「都市観光」が36.8%と最も高く（うち「美術館等」が20.7%、「ショッピング等」が16.1%）、次いで「祭・行事」の16.1%、「神社・仏閣」の7.4%だった。

図10 目的別観光客数の割合

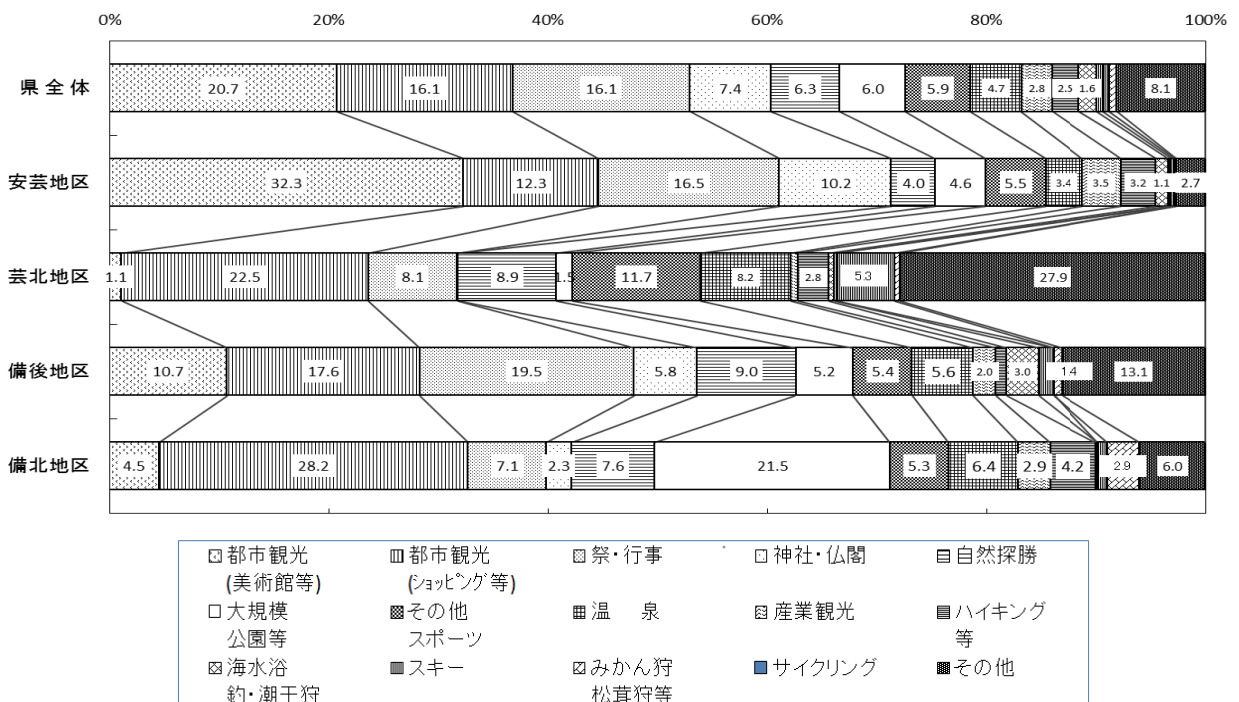


(注) 都市観光：都市を見たり、都市で学ぶことを目的としたもの  
 (美術館等)：美術館、博物館、動・植物園、水族館等  
 (ショッピング等)：非日常の買い物や食事、映画鑑賞等

次に、地区別に目的別観光客の割合を見ると、すべての地区において「都市観光」が最も多く、次いで安芸地区と備後地区では「祭・行事」、芸北地区では「その他スポーツ」、備北地区では「大規模公園等」が高い割合となった。

図11 地区別目的別観光客数の割合

(単位：%)



(5) 旅行形態別観光客数の状況

① 日帰り・宿泊別観光客数の状況

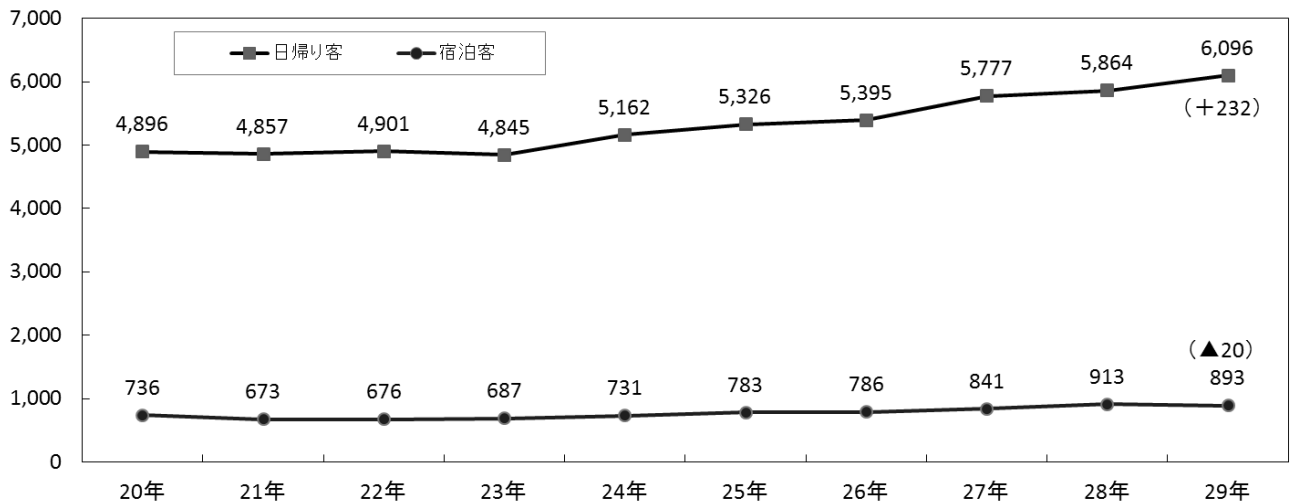
(単位：万人)

区 分	日帰り客		宿 泊 客	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	6,096	87.2%	893	12.8%
安芸地区	2,935	81.1%	686	18.9%
芸北地区	466	96.9%	15	3.1%
備後地区	2,130	93.3%	153	6.7%
備北地区	565	93.5%	39	6.5%

本県を訪れる観光客の多くは日帰り客であり、全体の9割近く(87.2%)を占めている。宿泊客は、前年より20万人減少した。地区別では、安芸地区686万人が県全体の7割以上(76.8%)を占めており、次いで備後地区153万人、備北地区39万人、芸北地区15万人の順となった。

図12 日帰り・宿泊別観光客数の推移

(単位：万人)



② 一般・団体・修学旅行別観光客数<sup>(注)</sup>の状況

(単位：万人)

区 分	一般客		団体客		修学旅行客	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	6,027	86.2	893	12.8	69	1.0
安芸地区	3,075	84.9	485	13.4	61	1.7
芸北地区	421	87.5	59	12.3	1	0.2
備後地区	2,018	88.4	258	11.3	7	0.3
備北地区	513	84.9	91	15.1	0	0.0

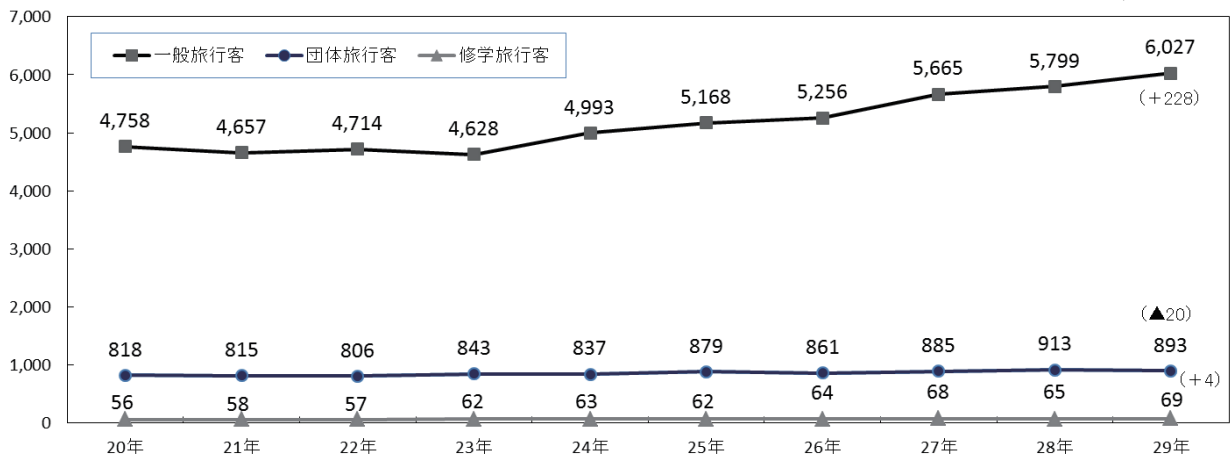
観光客を一般客、団体客、修学旅行客別にみると、一般客は前年より228万人、修学旅行客は4万人増加し、団体客は20万人減少した。

(注) 団体客：10人以上の団体旅行者、一般客：団体客、修学旅行客以外の旅行者



図 1 3 一般・団体・修学旅行別観光客数の推移

(単位：万人)



(6) 交通機関別観光客数の状況

観光客の利用交通機関をみると、自家用車を利用した、いわゆる「マイカー客」が3,801万人（前年比1.2%増）と最も多く、観光客全体の54.4%を占めている。

ついで、鉄道利用者が1,457万人（前年比8.3%増）、バス利用者が721万人（前年比1.1%減）、船舶利用者が688万人（前年比2.5%増）、航空機利用者が50万人（前年比4.2%増）だった。

図 1 4 交通機関別観光客数の割合

(単位：万人)

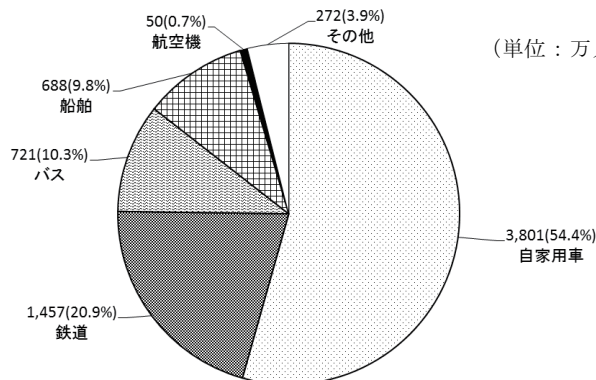
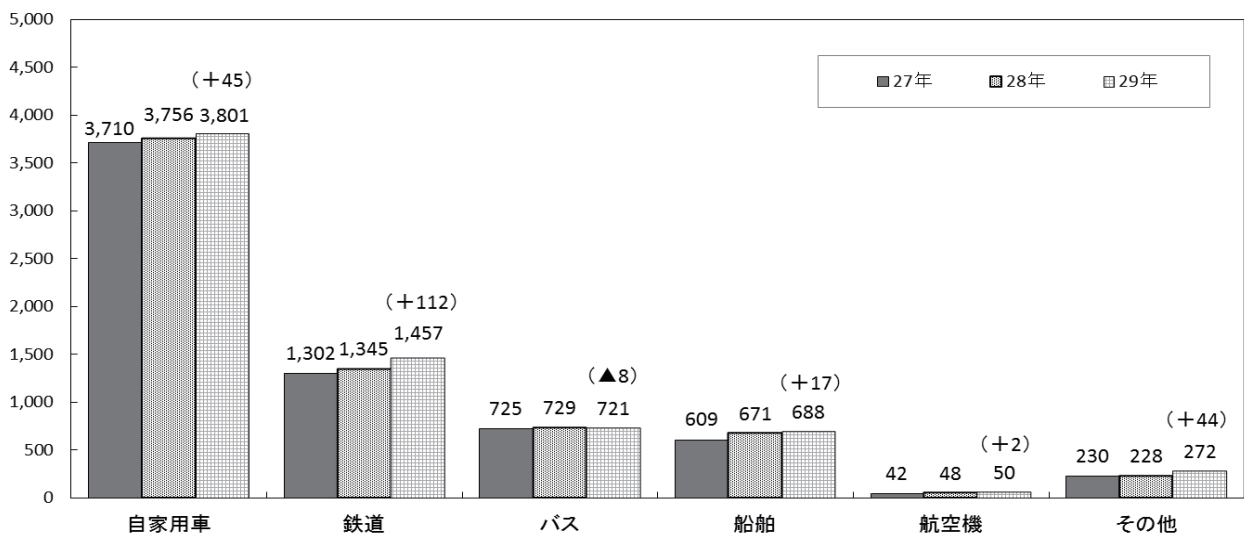


図 1 5 交通機関別観光客数の状況

(単位：万人)



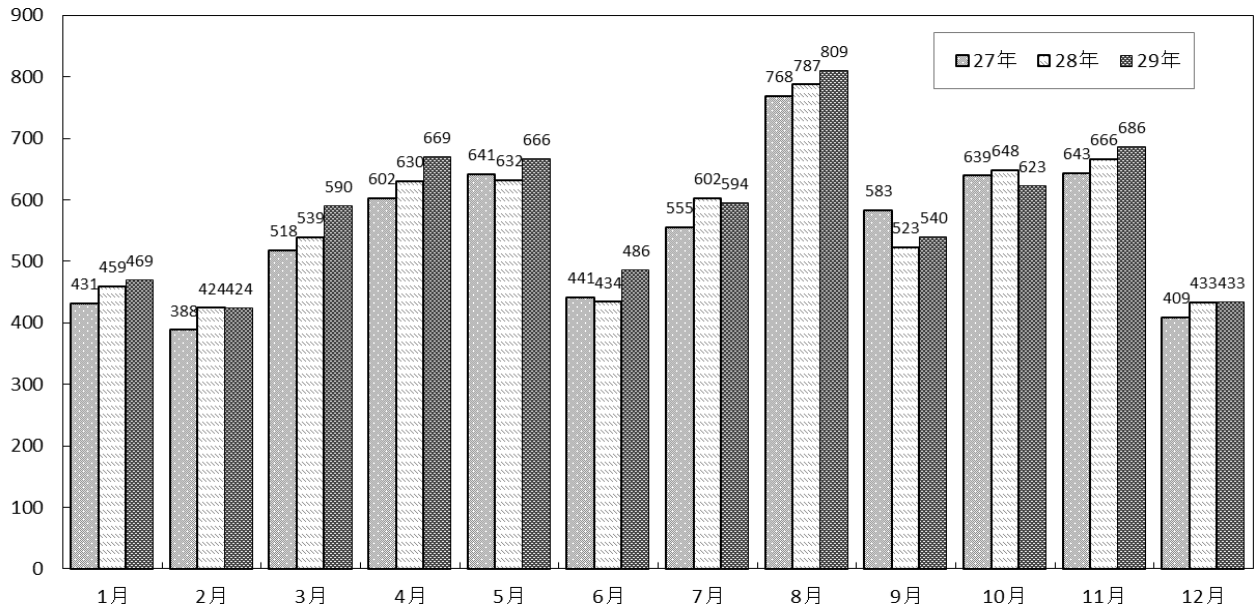
## (7) 月別・季節別観光客数の状況

### ① 月別観光客数の状況

月別に見ると、最も観光客が多かったのは、8月の809万人、次いで11月の686万人、4月の669万人、5月の666万人だった。

図16 月別観光客数の状況

(単位：万人)

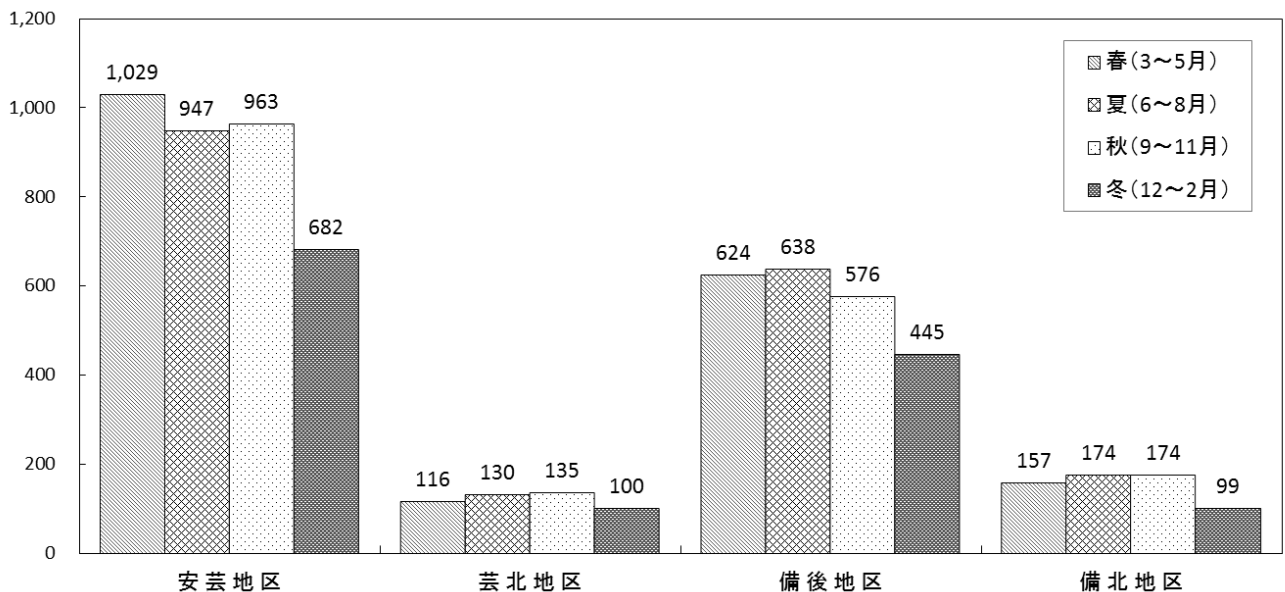


### ② 地区別・季節別観光客数の状況

季節別に見ると、観光客が最も多くなったのは、安芸地区においては春、芸北地区においては秋、備後地区においては夏、備北地区においては夏と秋となった。

図17 地区別・季節別観光客数の状況

(単位：万人)



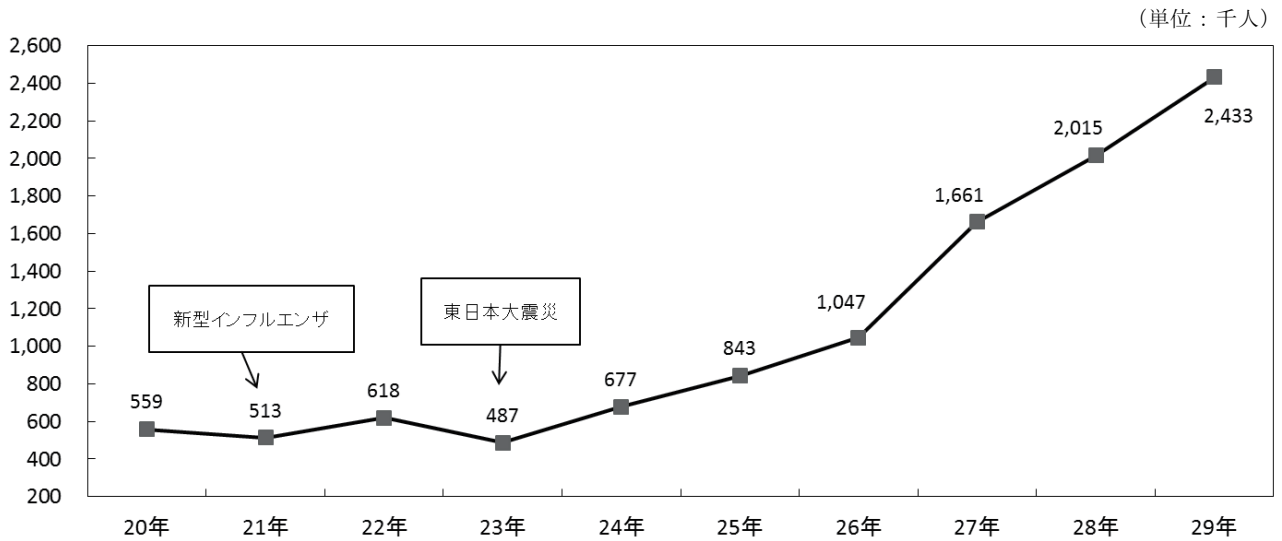
## 2 外国人観光客数の状況

(単位：千人)

区分	平成29年	平成28年	対前年増減	対前年増減率
外国人観光客数	2,433	2,015	418	20.7%

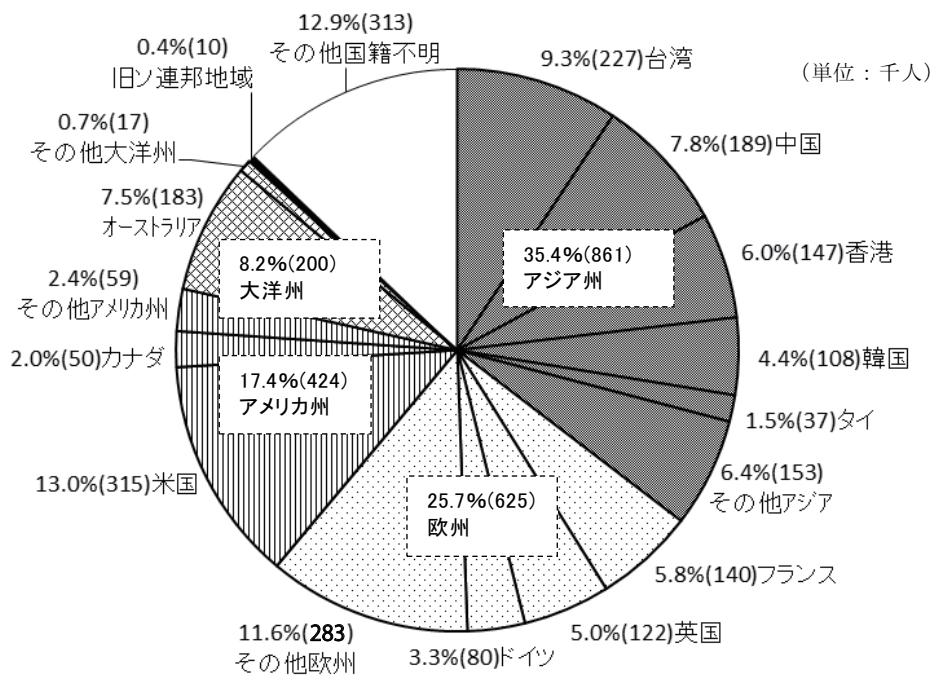
平成29年に本県を訪れた外国人観光客は、243万3千人となっており、前年と比べて41万8千人（20.7%）増加し、6年連続して過去最高を更新した。

図18 外国人観光客数の推移



次に、地域別に外国人観光客の割合を見ると、アジア州からの観光客が全体の35.4%を占めて最も高く、次いで欧州が25.7%、アメリカ州が17.4%だった。

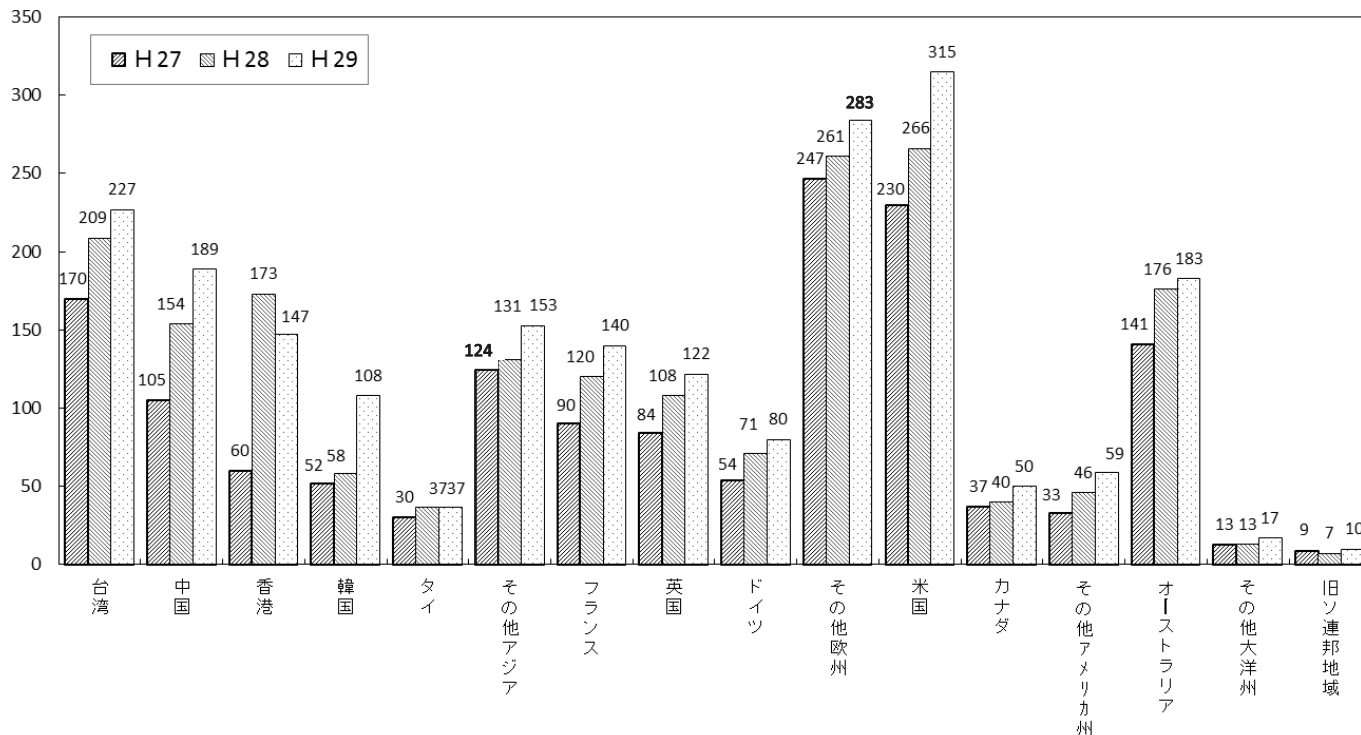
図19 国籍・地域別外国人観光客数の割合



国籍別では、米国が最も多く（31万5千人）、次いで台湾（22万7千人）、中国（18万9千人）の順となった。

図20 主な国籍・地域別外国人観光客数の推移

(単位：千人)



国籍・地域別外国人観光客数の順位（上位10位）

(単位：千人)

順位	国籍名	平成29年	平成28年	対前年増減	対前年増減率	前年順位
1位	米国	315	266	49	18.4%	1位
2位	台湾	227	209	18	8.6%	2位
3位	中国	189	154	35	22.7%	5位
4位	オーストラリア	183	176	7	4.0%	3位
5位	香港	147	173	▲26	▲15.0%	4位
6位	フランス	140	120	20	16.7%	6位
7位	英国	122	108	14	13.0%	7位
8位	韓国	108	58	50	86.2%	9位
9位	ドイツ	80	71	9	12.7%	8位
10位	カナダ	50	40	10	25.0%	10位

### 3 観光客数及び観光消費額の状況

#### (1) 観光客数の推移

平成29年の総観光客数は6,989万人となり、そのうち入込観光客<sup>(注)</sup>は、前年に比べて128万人(2.6%)、県外観光客は110万人(3.7%)増加した。

また、地元(市町内)観光客は1,981万人で、前年に比べて84万人(4.4%)増加し、総観光客数に占める割合は28.3%だった。

(注) 入込観光客：各市町を当該市町の区域外から訪れた観光客

(単位：万人)

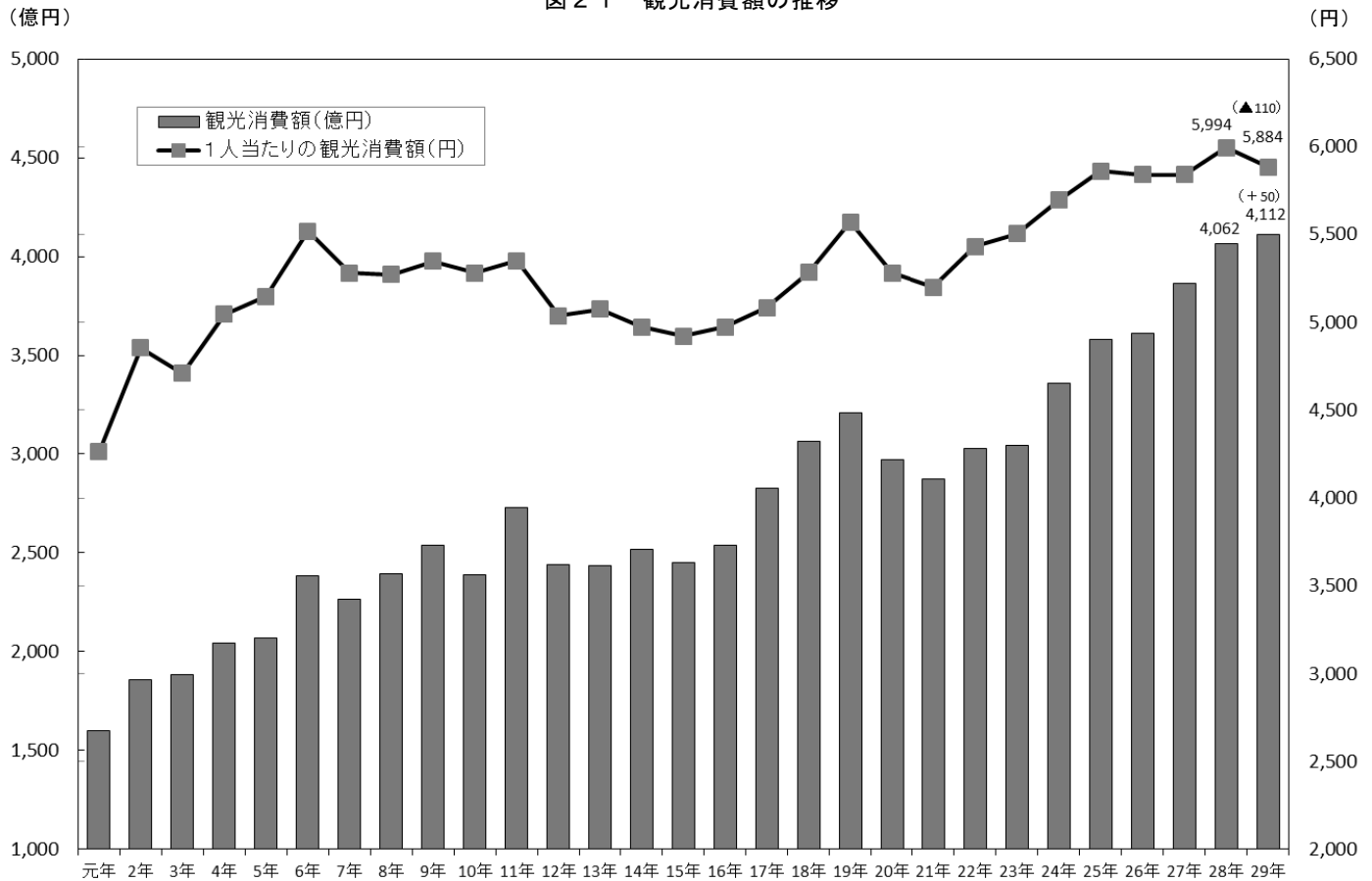
区分	年次	県内観光客			県外観光客	入込観光客	総観光客数
		地元観光客	市町外観光客	計			
		(A)	(B)	(A)+(B)			
実績	元年	656	1,355	2,011	1,747	3,102	3,758
	2年	666	1,387	2,053	1,774	3,161	3,827
	3年	696	1,437	2,133	1,831	3,268	3,964
	4年	711	1,490	2,201	1,845	3,335	4,046
	5年	749	1,456	2,205	1,817	3,273	4,022
	6年	817	1,540	2,357	1,959	3,499	4,316
	7年	836	1,553	2,389	1,870	3,423	4,259
	8年	893	1,651	2,544	1,998	3,649	4,542
	9年	900	1,746	2,646	2,096	3,842	4,742
	10年	898	1,678	2,576	1,944	3,622	4,520
	11年	960	1,788	2,748	2,350	4,138	5,098
	12年	984	1,753	2,737	2,107	3,860	4,844
	13年	1,043	1,747	2,790	2,014	3,761	4,804
	14年	1,126	1,887	3,013	2,048	3,935	5,061
	15年	1,081	1,891	2,972	2,004	3,895	4,976
	16年	1,162	1,885	3,047	2,051	3,936	5,098
	17年	1,212	2,003	3,215	2,341	4,344	5,556
	18年	1,433	1,945	3,378	2,421	4,366	5,799
	19年	1,434	1,968	3,402	2,359	4,327	5,761
	20年	1,415	1,886	3,301	2,331	4,217	5,632
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	4,106	5,530
	22年	1,462	1,690	3,152	2,425	4,115	5,577
	23年	1,508	1,559	3,067	2,465	4,024	5,532
	24年	1,636	1,703	3,339	2,554	4,257	5,893
	25年	1,690	1,732	3,422	2,687	4,419	6,109
	26年	1,737	1,748	3,485	2,696	4,444	6,181
	27年	1,863	1,889	3,752	2,866	4,755	6,618
	28年	1,897	1,918	3,815	2,962	4,880	6,777
	29年	1,981	1,936	3,917	3,072	5,008	6,989
構成比	元年	17.5%	36.1%	53.5%	46.5%	82.5%	100.0%
	2年	17.4%	36.2%	53.6%	46.4%	82.6%	100.0%
	3年	17.6%	36.3%	53.8%	46.2%	82.4%	100.0%
	4年	17.6%	36.8%	54.4%	45.6%	82.4%	100.0%
	5年	18.6%	36.2%	54.8%	45.2%	81.4%	100.0%
	6年	18.9%	35.7%	54.6%	45.4%	81.1%	100.0%
	7年	19.6%	36.5%	56.1%	43.9%	80.4%	100.0%
	8年	19.7%	36.3%	56.0%	44.0%	80.3%	100.0%
	9年	19.0%	36.8%	55.8%	44.2%	81.0%	100.0%
	10年	19.9%	37.1%	57.0%	43.0%	80.1%	100.0%
	11年	18.8%	35.1%	53.9%	46.1%	81.2%	100.0%
	12年	20.3%	36.2%	56.5%	43.5%	79.7%	100.0%
	13年	21.7%	36.4%	58.1%	41.9%	78.3%	100.0%
	14年	22.2%	37.3%	59.5%	40.5%	77.8%	100.0%
	15年	21.7%	38.0%	59.7%	40.3%	78.3%	100.0%
	16年	22.8%	37.0%	59.8%	40.2%	77.2%	100.0%
	17年	21.8%	36.1%	57.9%	42.1%	78.2%	100.0%
	18年	24.7%	33.5%	58.3%	41.7%	75.3%	100.0%
	19年	24.9%	34.2%	59.1%	40.9%	75.1%	100.0%
	20年	25.1%	33.5%	58.6%	41.4%	74.9%	100.0%
	21年	25.8%	31.6%	57.4%	42.6%	74.2%	100.0%
	22年	26.2%	30.3%	56.5%	43.5%	73.8%	100.0%
	23年	27.3%	28.2%	55.4%	44.6%	72.7%	100.0%
	24年	27.8%	28.9%	56.7%	43.3%	72.2%	100.0%
	25年	27.7%	28.4%	56.0%	44.0%	72.3%	100.0%
	26年	28.1%	28.3%	56.4%	43.6%	71.9%	100.0%
	27年	28.2%	28.5%	56.7%	43.3%	71.8%	100.0%
	28年	28.0%	28.3%	56.3%	43.7%	72.0%	100.0%
	29年	28.3%	27.7%	56.0%	44.0%	71.7%	100.0%

## (2) 観光消費額の状況

平成29年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、みやげ品代、飲食代、入場料などに消費した観光消費額の総額は4,112億円で、前年に比べて50億円（1.2%）の増加となり、過去最高値となった。

一方で、観光消費額の総額を総観光客数で除した1人当たりの観光消費額<sup>(注)</sup>は、前年より110円（▲1.8%）減少し、5,884円だった。

図2-1 観光消費額の推移



区分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
観光消費額(億円)	1,602	1,858	1,884	2,043	2,071	2,382	2,263	2,394	2,536	2,387	2,728	2,440	2,437	2,517	2,449
1人当たりの観光消費額(円)	4,263	4,854	4,710	5,047	5,147	5,518	5,282	5,271	5,348	5,282	5,351	5,037	5,074	4,974	4,922

区分	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
観光消費額(億円)	2,536	2,825	3,065	3,210	2,974	2,876	3,030	3,045	3,356	3,580	3,610	3,865	4,062	4,112
1人当たりの観光消費額(円)	4,974	5,085	5,285	5,572	5,280	5,201	5,433	5,504	5,695	5,860	5,840	5,840	5,994	5,884

(注) 1人当たりの観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

なお、観光消費額については、各市町が推計したものの集計